

瀬戸内の過去・現在・未来 シンポジウム

— 新しい希望にあふれた瀬戸内海世界の創造に向けて —

◆2009年12月12日(土) 13時~16時45分◆



瀬戸内海で三番目に大きい山口県周防大島出身の民俗学者宮本常一は「旅する巨人」と呼ばれました。周防大島文化交流センターには宮本が残した膨大な著書・蔵書と日本各地を歩いて撮影した写真、調査ノートなどが「宮本常一文庫」として所蔵されています。広島大学では地域貢献研究の一環として、昨2008年度に「民俗学者宮本常一の著書・蔵書活用法プロジェクト」を、本2009年度には「民俗学者・宮本常一の撮影した写真ネガフィルムのデジタルデータ化」を周防大島の行政ならびに住民のみなさんと協同で進めてきました。

日本各地を旅した宮本は、とりわけ地元の瀬戸内海をこよなく愛し、多くの調査記録を残しましたが、彼が見た瀬戸内海の歴史と文化は、ヨーロッパの地中海や、アメリカのメキシコ湾、あるいは今日緊張が高まる日本海(日本側の呼称)のそれと相通ずるものがあります。すなわち、人々の生活が顔の向きあう距離で成立していた瀬戸内海世界の豊かさから、世界史的スケールが広がる可能性があるのです。

その点で私たちが思い出すのは、半世紀近くも昔の1960年に宮本がおこなった「瀬戸内海学会の提唱」です。宮本は「一年に一回くらい、集まって研究成果の発表のもてるような瀬戸内海学会とでもいうべきものを持ちたい」とのべましたが(中国新聞同年7月4日付)、それは内海研究の総合化を通した、豊かな瀬戸内海世界への歩みでした。また、高度経済成長の真ただ中の1965年に宮本が訴えた「自然の美と人間の尊厳をそこなわない開発」(中国新聞同年8月10日付)は、今こそ追い求められなければならない意味をもっているでしょう。

今回開催する「瀬戸内の過去・現在・未来」シンポジウムは、宮本が構想した「瀬戸内海学会」の趣旨に深く学びながら、広く今後の地域振興策の提言につながるような瀬戸内の総合的研究の端緒を打ち立てることをめざすものです。

多くのみなさんご参加のもと、新しい希望にあふれた瀬戸内海世界の創造に向けて、活発な議論をくりひろげたいと思います。

■内 容

1. パネラー報告

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| 片岡智氏(福山市歴史資料室) | 「近世瀬戸内の社会空間—信頼と競争の交差点—」 |
| 印南敏秀氏(愛知大学) | 「瀬戸内の文化—里海—」 |
| フंक・カロリン氏(広島大学) | 「瀬戸内海を楽しむ」 |

2. 特別スピーチ

秋田 明大氏(呉市)「瀬戸内に生きる」

3. パネル・ディスカッション

片岡智氏、印南敏秀氏、フंक・カロリン氏、
八幡浩二氏(尾道学研究会幹事)、長谷川尚道氏(NPO法人かみじまの風理事)

■会 場：広島大学大学院文学研究科・文学部1階 B104 講義室

〒739-8522 東広島市鏡山1-2-3

■主 催：周防大島文化交流センター

広島大学地域貢献研究「民俗学者宮本常一の著書・蔵書活用法プロジェクト」

■共 催：広島大学大学院文学研究科比較日本文化学プロジェクト研究センター

■お問い合わせ：広島大学大学院文学研究科 河西研究室

Tel: 082-424-6633

E-mail: kawanish☆hiroshima-u.ac.jp

(☆を@に書き換えてください)

参加申込不要・入場無料

【会場案内】

